

ひとり出版社

〈瑞乃書房〉の

舞台裏

米田政行

1 はじめての出版編

瑞乃書房

ひとり出版社〈瑞乃書房〉の舞台裏 1 はじめての出版編
プレビュー版

ひとり出版社

〈瑞乃書房〉の

舞台裏

1 はじめての出版編

瑞乃書房

日々の行動・思考・感情を淡々と

ごきげんよう。〈瑞乃書房〉というひとり出版社の代表をしている米田政行と申します。2024年の11月に会社を設立し、2026年の7月にやっと1冊目を出版しました。以後お見知り置きを。

この本（ZINE）は、ぼくが自社のサイトで週に1回更新しているブログ「瑞乃書房の舞台裏」をまとめたものです。このタイトルは、ひとり出版社の大先輩である（面識はありませんが）岩田博さんの著書『ひとり出版社「岩田書院」の舞台裏』にあやかっつけました。あちらは、岩田書院の新刊ニュースに掲載しているコラム「裏だより」を再録したものです。岩田書院は週に1冊（！）のペーjsで書籍を出版していて、そのたびに新刊ニュースが発行されるので、「裏だより」も相当の分量が書かれていることになります。じつは瑞乃書房でも（やはり岩田書院を見習って）本を出すたびに小冊子を発行しようと目論んでいて、今回の1冊目の発売に合わせて小冊子をつくりました。しかし、週に1冊ずつ本を出版するなんて真似はとうていムリ。設立から1年半以上の時間をかけてやっと1冊目を出したというていたらしく。ですから、小冊子の内容ではなく、週1回書いているブログの記事でZINEをつくろうと考えたわけです。

岩田さんの「裏だより」と同様に、ブログ「瑞乃書房の舞台裏」では、評論家よろしく大上段にまえて出版業界を俯瞰するような講釈を垂れたりするのではなく、日々の出版活動のなかで実際にやったこと・考えたこと・感じたことを淡々と綴っています。ぼくの場合は、なによりブログの更新をつづけることが肝要だと思い、あまり時間をかけずに、たいていは5分くらいでさっさと書いてしまっています。そのやりかたが功を奏し、ブログの開始以来1週も休まずに更新することができました。

こうして1冊のZINEにまとまるくらいの分量がたまったわけです。

あなたが過度な期待をされないようあらかじめ申し上げておくと、前述のとおり、「日々の出版活動のなかで実際にやったこと・考えたこと・感じたことを淡々と綴って」いるだけで、たとえば「ひとりで出版社のつくりかた／経営のしかた」といったことを網羅的・体系的に語っているわけではありません。もしあなたが出版社のつくりかたを具体的に知りたいとお思いなら、ほかにすぐれた書籍がたくさんあるので、そちらをご参照いただければと思います。

一方で、日々の行動・思考・感情を淡々と書いたものであっても、ひとり出版社の実践者が吐露する生の声であることも事実で、なんらかの参考になることもあるかもしれません。実際、『ひとり出版社「岩田書院」の舞台裏』シリーズは3冊ありますが、ぼくが出版社をつくる際はもちろん、いまだにときどき読み返す「教科書」になっています。このZINEもそんなふうにしたのしんでいただければ嬉しいです。

この本は3つのパートで構成されています。ブログの記事を更新順に並べ、読みやすいように適当なところで3等分しただけで、「出版社をつくる」のパートに「本を編集する」という内容が入っているだけです。また、元の文章のあきらかな誤りを修正したほか、最低限の表記の統一をほどこした以外は、そのまま掲載しています。だから、似たようなことをくりかえし述べていたりもしますが、中年のオジサンにありがちな「おなじ話をくりかえす」アレだと思って嗤わらってやってください。

もくじ パート1 出版社をつくる

9

取次会社の審査OK	10
公証役場に定款認証の予約	10
束の間のミュシャ展	11
登記申請書類を作成	12
11月25日、会社設立	13
プリンター、導入	14
法務局、再び	16
著者と、面談	17
もうひとりの著者と、面談	18
財務計画表、作成	19
書籍、制作開始	19
ガントチャート、つなげる	20
販売管理システム、検討	20
業務委託契約書、作成	21
しばし、低空飛行	21
読書と、お金の計算	22
会社ロゴ、提案	22
ポッドキャストを、お試し	22

週4日制、週休3日制	23
ゴルディアスの結び目を、ほどこ	24
出版活動、無力	24
書類の撮影、失敗	25
日々の感情を、見つめる	25
資金を、借りる	26
インタビュアー、掲載	27
膝の痛みの、憂鬱	28
赤を、手書きで	28
健康診断を、予約	29
ラフコンテ用紙を、自作	29
A1につくれない、本	30
花を、かざった	31
融資が、実行	32
Mac、新調	32

パート2 本を編集する

35

希少な、出張
 本の仕事と、図書館
 健康を、診断
 ガントチャート、来年6月まで
 プチビジネスを、ラボする
 新しい企画を、立てた
 新規事業を、開発中
 暑中見舞い、送る
 クライアントワークに、集中
 ブッククラフトに、没頭
 ピクトグラムを、管理
 給料は、まだ出せない
 日々、勉強
 ファミレスで、憲法
 企画提案、最後の手段
 著者の音声メッセージを、配信
 ZINEフェス、出展
 書籍の、流れ

36 36 38 38 40 40 41 42 43 43 44 44 45 46 46 47 48

ストーリーボード、つくる
 年末調整の、手続き
 ストーリーボードを、活用
 2026年を、計画
 原稿チェックに、そなえる
 デザインを、発注①
 ジャーナリングの、教科書
 デザイン案が、とどく
 決算と申告が、完了
 株主総会、議事録
 年末、年始
 事務作業に、追われる
 デザインを、発注②
 インスタントな、書籍
 ジャーナリングを、クラフト
 ココロが、ダウン
 アイディアを、出す
 アイディアを、まとめる

48 49 49 50 50 51 51 52 53 53 54 54 55 55 56 56 57 57

パート3 本を出版する

クラフトと、インプリント	60
クラフトに、励む	60
カバーデザインを、発注	60
イラスト、発注	61
瑞乃会の、準備	62
インタビュを、準備	63
初校校正、スタート	64
倉庫会社、訪問	64
ハウススタジオで、撮影	65
印刷所を、訪問	66
束見本、出来	66
鷗来堂、訪問	67
『ジャーナリング』も、進行	68
電子書籍を、制作	68
新刊チラシを、作成	69
色校、チェック	70
印刷所、入稿	70
『パラレルワーカーの教科書』、校了	71

59

最初の、注文数 見本、届く	72
『パラレルワーカーの教科書』、発売	74
まえがき	4
日々の行動・思考・感情を淡々と	34
ちよつとつけたし①	58
ちよつとつけたし②	77
ちよつとつけたし③	77

パート1

出版社をつくる

取次会社の審査OK

今週は、電子定款を専門家に送付。会社設立の手続きは複雑だが、正解が存在するもので、手順にしたがい淡々と進めていけばいい。ビジネスがはじまったら、決まった正解がなく、みずから正解を決めなければならぬ場面が多くなるだろう。

倉庫会社から、先週お願いした見積書が届く。ひとり出版社の立ち上げ当初は倉庫を借りず事務所に在庫を置いておくのがセオリーのようなが、私にはちよつと疑問がある。他社から見積りをとるつもりだったが、この会社に通話したとき、応対してくださった人の感じがよかつたので、ここに決めたいと思っている（値段をつけられない利益を得られそうと直感した）。

取次会社から審査通過の連絡がくる。よほどの問題がないかぎり審査は通ることだったが、万が一の場合もありえたので、ほつと一安心。5点分の企画書をもつていったことも効いたのかもしれない。

〔2024年11月3日〕

公証役場に定款認証の予約

定款の認証を受けるため公証役場に予約の電話を入れる。今週は予約がいっぱいとのこと。「そんなに会社をつくる人がいるのか!」と思ったが、公証役場は定款の認証だけをやっているわけではないか。

ずっとオンラインで会社設立の手続きを進めてきたのに、ここへきて現場に足を運ばなければならぬのは不思議な感じ。しかも、定款のデータを受け取るためにCD-Rを持参する必要がある。小社にはMac 2台とWindows 機1台があるが、いずれもCDドライブは付いていない。Mac用の外付けドライブがあるから問題ないが、難儀する人もいるのでは? このへんがオンライン化されるのはいつの日だろうか。

公証役場にもつていくため、定款と委任状を製本。ホッチキスで止めるだけでもいいようだが、本格的に製本テープで綴じることにする。問題は、テープと紙の境界に印鑑を押すとき、なかなかうまくいかないこと。テープと紙にわずかな段差があるため、朱肉がうまくのらない（印鑑がゴ

ム印だったらしいのだが、あいにくチタンの硬いハンコなのだ。案の定、失敗してしまい、やり直すことに。2回目は完璧とはいわないまでも、まあ許容範囲といえる出来栄え。公証役場ではないと言われるかも知れないが、印鑑はもっているの、その場で対処すればいいだろう（たぶん）。

〔2024年11月10日〕

束の間のミュシヤ展

今週は、定款の認証のため公証役場へ。おなじ区内にありながら交通の便が悪いため、バスで30分ほどかかる。ここから神保町に行くほうがよっぽど早いだろう。それでいて、認証は20分ほどで終了。先週の懸案事項だった、ハンコについてはなにも指摘されなかった。

メールの環境を整えるため、Google Workspace に申し込む。よく探せばもったいメールサービスがあるかもしれないが、性能やコストを考えると、まあベターな選択だろう。個人事業主時代にも使っていたのに、申し込み方法がよくわからず難儀する。メールアドレスを使い分けたい

のだが、メールのエイリアスを設定するのにやはり四苦八苦。なんとか無事に設定をおえる。

今週はミュシヤ展に足を運んだ。最近は会社の設立準備に明け暮れているが、大したことをやっているわけではない。ただ、いろいろゴチャゴチャと頭を働かせなければならず、リフレッシュしたかったのだ。アートのことはまるで門外漢だが、非日常的な空間に身を置くことに意味がある。混雑を避けるため平日におこなったのに、それなりに人が入っている。さすがミュシヤといったところか。

会社設立と同時に関係各所に送る挨拶文を用意する。郵送にしようかと迷ったが、結局メールで送信することにした。

毎週日曜日にやっている「ひとり戦略会議」を金曜日におこなった。ひとり出版社の運営に向けて考えるべき問題は山積みだ。コーヒーを淹れ頭をフル回転させて考えていると夜寝つけなくなってしまう場合が多く、被害を最小限におさえるために曜日を变えることにしたのだ。今回は実験的に生成AIのClaude・ChatGPT・Geminiにも「出席」してもらおう。出版理念を活かし、どのように事業を展

開していけば売上がアップするかなどを話し合った。

〔2024年11月17日〕



登記申請書類を作成

登記申請書類を作成する。またしても各所にハンコを押さなければならぬ。100%の出来栄でなくても許されると思うが、印鑑届のものは完璧にしたい、何度かやり直す。書類はホッチキスで綴じるのだが、厚みがあるので、ふつうのホッチキスではムリ……と予感。「せっかくだからよい紙を使おう」と、スーパーファイン専用紙にプリントしたのが仇（あだ）になった。万全を期すため、実家から大きなホッチキスをとってくる。これは、若いころコピーの小冊子（ZINE）を綴じるのに用いていたものだ。30年後に再び役立つことになるとは感慨深い。

会社が稼働したらすぐ著者に依頼できるよう企画書と依頼メールの文面を準備する。依頼メールはAIに添削してもらう。AIの考えの一部に同意できず反論すると、自分の意見が通ることになった。AIと議論してもしかたがないのだが。

法人用のクレジットカードを申し込みたいのだが、クラウド会計サービスと連携できるかが不明。ネットで調べる

と複数のサイトで「可能」とあり、ChatGPTもそう答えるが、情報源は1か所かもしれない、鵜呑みにするわけにはいかない。カード会社に問い合わせると「そんなこと知るかバカヤロー」（大意）とお返事。しょうがないのでクラウド会計サービスのカスタマーサービスに問い合わせのメールを送信する。返信は来週になると思うが、私の勘ではクラウド会計サービスからも「やってみないとわからない」といった答えが返ってくる気がする。

〔2024年11月24日〕

11月25日、会社設立

11月25日に登記申請書類を法務局へ提出。つまり、この日が小社の設立日となる。事前にAに「設立日をいつにするのがいいか」を尋ね決定したもの。1125は「いいニコッ（笑顔）」となり、出版理念にも合致する。ただ、私自身は密かに「ワンワン・ニャンコ」と語呂合わせで覚えようと思う。

手続きに要した時間は、わずか1分程度。その場では内



容を精査しないためだが、あまりにもあつけなさすぎる。「とうとう会社を設立したぞー」という感慨がない。

出版社が稼働したら、顧客管理システム（CRM）を導入しようと考え、今週はその試運転を試してみた。フリーランスではCRMなど使わなかったが、出版社の経営には必要になると予想している。難しいのは、いまの自分にとってCRMは、直面している課題を解決するためではなく、「将来直面するであろう課題」のソリューションである点だ。出版業という事業の本質、CRMの本質の両方を理解していないとうまく扱えず、なかなか厳しい試練となりそう。ここでもAIのアドバイスを頼りにしている。

先週お問い合わせをした、法人用クレジットカードと会計サービスの連携について回答がきた。「やってみたいとわからない」ではなかったが、「クレジットカードの会員向けサービスにてご利用明細が確認可能な場合には、会計サービスでも登録同期・自動明細取得が可能でございませう」と、なんとも煮え切らないお答え。ズバリ「そのカードなら連携できます」とは答えられないのだろう。かつて編集プロダクションに勤めていたとき、クレジットカード

のムック（雑誌）をつくったことがある。カードごとにさまざまな権益が絡み、とても苦労した。回答は曖昧にならざるをえないのだろう。いちおう疑問は解消されたからよしとしよう。

〔2024年12月1日〕

プリンター、導入

法人番号登録完了のお知らせが郵便で届いた。法務局で申請時に告げられた日より早い。本人より前に銀行が知ったのだろう、口座開設を勧めるハガキも一緒に送られてきていた。

弁護士のもとを訪れ、顧問契約の相談をする。ひとり会社だからといってコンプライアンスをなおざりにしたくないと思ったのだ。無名の著者に寄り添いながら本づくりをおこなうことを出版理念にしており、権利関係も文書で明確にしておきたい、という考えもある。また、この激動の時代、ひとり出版社が生き残るには、革新的な販促やプロモーションが必要になるだろう。弁護士から法的アドバイ



スを受けながら施策を進めていきたい。

ファクシミリを導入するため、番号を追加する手続きをする。インターネットの会社なのに、なぜかサイトから申し込めない。しぶしぶ電話をする。その窓口もひとつしかなく、午前中に20分ほどかけつづけてもつながらない。おなじ日の午後15分ほど再挑戦してやっと手続きができた。サイトから受け付けず、番号もひとつだけなのは、会社側にはなにか合理的な理由があるかもしれないが、ユーザーとしては不便極まりない。

エプソンの複合機が届く。キャノンの家庭用複合機が稼働しており問題なく作動するが、ファクシミリが付いていない。出版社にファクシミリは必須（らしい）。ちなみに、パナソニックの「おたつくす」（ファクシミリ付き電話）も使っているのだが、パソコンで送受信したいのと、校正紙を大量に印刷することを考えて、新たに導入した次第だ。

ひとり出版社設立のあいさつを各所に送る。「だれにも見向きもされないだろう」と思っていたが、多くの方から励ましのご返信をいただき、嬉しいかぎり。

〔2024年12月8日〕

法務局、再び

履歴事項全部証明書（登記簿本）をもらいに法務局へ。同時に印鑑証明も入手するので書類に押印する。またしてもしちんとハンコを押さねばならぬが、割印ではないので一発でキメることができた。あと何回ハンコが必要になるのか……。

税理士の顧問契約について相談するため税理士事務所を訪問。税理士探しは会社設立の前から進めていたのだが、出版業の経理は特殊らしく、適任者を見つけるのに苦労する。Freeのコーディネーターにも手助けしてもらい見つけた事務所。少し話をして、その場で顧問契約を決める。

電子書籍の取次会社を訪問。自社の出版物は〈編集者〉としてはぜひとも紙の本を読んでもらいたいが、〈出版者〉としては電子版も必要と判断した。

会社設立前に取次会社に電話して「電子書籍配信にどのくらい費用がかかるか教えて」と聞いてみたのだが、「そんなこと、電話で答えられるか!」とのこと（ですよー）、

あらためてアポイントをとった次第。

じつはいまから20年ほど前、まだAmazon Kindleが上陸していなかったころ（スマホではなくガラケーが主流だった時期）、某大手出版社で電子書籍の配信事業に関わっていた。だから、ふつうの人よりは電子書籍に詳しい（はず）。

「で、結局のところ、電子書籍ってどのくらい売れるの?」と無茶な質問をする。相手は「知らねーよ、テメエが売れる本をつくれば売れるんだよ!」と返したところだろう。しかし、持ち前の「インタビュール力」を発揮し、質問の言葉を言い換えたりして、なんとか答えを引き出す。

紙の本と同様、電子書籍もなかなか売れなさそうで、厳しい道のりとなりそうだ。

ISBNコードと書籍JANコードを申請する。手続き完了までに2週間ほどかかるとのことだったが、翌日には一般社団法人日本出版インフラセンター・日本図書コード管理センターから電話があり、翌々日には支払い手続きをおえ、コードが送られてきた。別途、書類が郵送されてくるとのこと、それを受領しないと完了ではないらしいが、予想以上にスピーディーな展開にやや戸惑ってしまった（担

当事者が暇、ってわけじゃないですよな?。」

〔2024年12月15日〕

著者と、面談

1点目の書籍の著者と最初の面談。これまで会社設立の手続きに奔走^{ほんそう}してきたわけだが、やっと売上に結びつく仕事を始めたことになる。著者はすでに面識のある方なので、話はスムーズに進む。私は「人生をおもしろがった者が勝ち」といった世界観で出版活動をおこなっており、それを著者と共有することができたので、たのしい本づくりとなりそうだと。

個人事業主の廃業届を提出するため税務署へ。法務局とおなじように、区内にありながら交通の便が悪く、いったん千葉県の駅まで行き電車を乗り継がないとたどりつけない。前に税務署を訪れたのは個人事業の開業のときだった。じつは税務署は、通っていた高校の近所にある。懐かしさとともに辺りを散策としゃれ込む……つもりだったのだが、街並みがすっかり様変わりしているせいか、まったく記憶

は呼び起こされず、懐かしさはおぼえなかった。

会社のロゴの制作を依頼するため、デザイン会社を訪問。本来なら、会社の設立に間に合うように頼んでおくものだが、相手はさまざまなメディアのデザインを手がける有名な会社で、設立前ではお引き受けいたさない恐れもあったため、法人登記が済んだあとに連絡することにしたのだ。お願いしたのは、会社のロゴと読者会のロゴ、そしてSNSのアイコンだ。「瑞乃書房」という社名の文字面が硬いので、親しみやすさやカジュアル感を加味していただきたいとお願いする。けっこう無茶な要求だが、お手並み拝見といこう(偉そう)。ご担当者が私とおなじ古くからのセガ・ユーザーで、セガ・マスターシステムだの、メガドライブだの、『アウトラン』『アフターバーナー』だのと、しばしセガ・ハード&ゲームの話題で盛り上がる一幕もあった(ロゴの話よりも時間が長かったりして)。つまり、私の趣味の活動である〈ぎやふん工房〉のほうもつぶさにチェックしてくださったわけで、一流の会社はそこまでやる、というかもしれない。

〔2024年12月22日〕

もうひとりの著者と、面談

先週に引き続き、著者と面談。こちらは2点目の書籍となる予定だ。いかにもビジネスという雰囲気演出すべく、面談の場所にホテルのラウンジを選んだ。

できたばかりの弱小出版社で、まだなんの実績もなく、しかもお支払いできる印税は雀の涙ほどである（と予想される）にもかかわらず、乗り気になっていただけののがあるがたい。出版理念に共感していただけていることも大きいのだろう。たのしい仕事になりそうだ。

小一時間ほど考えていたが、気づくと3時間も経っていた。その間、ほとんどしゃべりっぱなしだったため、喉が痛くなってしまった（日常生活ではほとんど声を出す機会はないし、インタビューではこちらは聞き役だから、話すことに慣れていないのだ）。

今週は、年賀状づくりや、毎年プライベートで制作しているZINE（リトルマガジン）の発送作業などに追われ、会社に関係することはあまりやっていない。

来週から本気を出すつもりだ（もうお正月だが）。

[2024年12月29日]



財務計画表、作成

年末年始は〈財務計画表〉づくり、すなわち「お金の計算」に勤しむ。小社の出版理念として、無名の出版社が無名の著者の本を出していくことになるが、自分の間は売上が期待できそうもない。だから、融資すなわち借金をしなければならず、そのための申請書類も懸命に作成する。しかし、どうやって書けばいいかわからない欄もあり、ひとり出版社の経営は一筋縄ではないかない。

来週、税理士と打ち合わせをする予定なので、アドバイスをいただくことにしよう。

お金の計算も大切だが、そればかりやっているわけにはいかず、来週から本格的に書籍制作の作業に入るつもりだ。

〔2025年1月5日〕

書籍、制作開始

年末年始は〈出版者（経営者）〉としての仕事に勤しんでいたわけだが、いよいよ今週から〈編集者・ライター〉と

して、本格的な書籍制作をはじめた。

まずはスケジュール表づくり。書籍第1弾は漠然と4月ごろの発売と考えていたが、現時点で原稿ができあがっていなければ間に合わないことになる。やむをえず、6月発売に変更する。発売日を後ろ倒しにすれば、それだけ売上が立つのが遅れ、入金も遅れることになる。会社としてはよろしくないのだが……。

ただ、じつは第1弾の原稿はすでに手元にあり、それを活用することになっている。試しにページを組んでみたところ、ほぼページが埋まる分量がそろっているではないか!? であれば、4月発売でもいいけるのではないかと希望が見えたのだが――。

あらためて原稿を読み通してみると、あまりよろしくない気がする。素材としては悪くないのだが、書籍としてまとめると違和感がありそうだ。つまり、大規模な改修が必要。初っぱなから編集力が試されることになる。

第2弾の書籍にも手をつける。こちらは8月の発売とした。十分に時間があるようにも思えるが、原稿はなくゼロからのスタート。やはり試練となりそうだ。

今週はほかに、税理士さんと事業計画の相談。私のつくった計画表は芳しくなく、修正することに。

また、弁護士さんと顧問契約も結んだ。せっかくなので大いに活用させていただき、事業を発展させていきたいところ。

〔2025年1月12日〕

ガントチャート、つなげる

月曜日は祝日だが、会社にかかわる作業をする。仕事の流れをつかむため、ガントチャートを作成した。アプリも併用しているが、長期間を見通すには紙に描かなければならない。今期分（2025年10月まで）のシートをつなげてみると1メートル50センチもの長さになった。

ひとつの書籍制作がおわったら、次の書籍をつくりはじめるのが理想だが、実際はそうもいっていられず、前の書籍制作の途中で次をはじめなければならぬ。はたしてうまくこなせるのだろうか……。

〈仕事術〉の著者にオンライン取材。ふだんはStylckでや

りとりしているが、通知の設定に不備があったのか、メッセージに1週間ほど気づかず放置してしまうという失態を演じる。「著者に寄り添って」という出版理念を掲げているのに、これでは看板に偽りありだ。

《パラレルワーカー》の著者・泉綾子（アヤコP）さんにもオンライン取材。まだ著書を出していない方だが、おもしろそうなネタがポンポン出てきた。たのしい仕事になっていくだろう。

他社の本を読んで研究しているが、失礼ながら出来のよいものが少なく、勝算はありそうなのだが、はたして……。

〔2025年1月19日〕

販売管理システム、検討

今週は、販売管理システムの会社のご担当者にお話を聞く。まだ1点も出版しておらず、現時点で課題に直面しているわけではないのだが、近い将来かならず、なんらかの方法で書籍の動きを管理・記録することが必要になると判

断したからだ。

難しいのは、将来の課題であるがゆえに、詳細は想像するしかなく、したがってシステムのニーズも漠然としたものになりがちな点。たとえば、システムにAという機能が実装されていたとして、それがほんとうに必要なのか、どのくらい業務の効率化につながるのかが実感できない。

また、費用もけっして小さくなく、その点も頭を悩ませる。〈時間はお金よりも大切〉という世界観でいえば、システムの導入は時間をお金で買うようなものだが、そうだととしても自分の事業に見合うサイズなのか、いまは判断できないのが苦しい。システムの必要性を誰が判断するかといえ、自分しかありえず、書籍制作に集中できない時期はまだまだつづきそうだ。

〔2025年1月26日〕

業務委託契約書、作成

著者と締結する〈業務委託契約書〉を弁護士さんと作成した。〈出版契約書〉とは別に制作中の権利関係を明確に

しておこうと考えたからだ。また、書籍が完成する前に、宣伝を目的として、原稿などの中間成果物をブログやSNSに公開する規定も盛り込んでいる。

今週はほかに、3点目となる予定の著者と面談したり、いつもは取材をする、側の私がされる、側にまわったりするおもしろい出来事もあった（後者の詳細は後日あらためて報告したい）。

おもしろかったが疲労困憊こんぱいの一週間となった。

〔2025年2月2日〕

しばし、低空飛行

先週、緊張を強いられる日が連続したせいか、今週は電池が切れたように頭がうまく働かない状態に。なにもせず英気を養おうと思ったが、取材や税理士さんとの打ち合わせがあったり、電子書籍の取次会社の契約書をチェックしたりと、否応なしに思考力を問われる日々がつづいた。無理をすると長期にわたり悪影響が出かねないので、しばらく意識的に低空飛行をつづけたほうがいいかもしれない。

〔2025年2月9日〕

つつきはZINEでおたのしみください

【著者】

米田政行

(よねだ まさゆき)

瑞乃書房株式会社 代表取締役

出版者 編集者 ライター

中学生のころ、趣味でリトルマガジン（ZINE）をつくりはじめる（この趣味は現在も継続）。1998年、編集プロダクションに入社。大手出版社（学研・小学館・講談社）の育児雑誌、ホビー雑誌、子ども向けドリル、ゲーム攻略本、ビジネス雑誌・単行本などの企画・編集・制作に携わる。また、ウェブサイトの執筆・更新・管理作業も担当。社内では、自身もライターとして執筆・編集業務をこなしながら、スタッフの監督・指導、プロジェクトの進行管理などもこなう。2019年、個人事業主〈Gyahun 工房〉を開業、フリーランスのライター・編集者として活動を開始。ビジネス書・自己啓発書・実用書を中心に書籍の編集制作に従事。そのほかウェブ記事の取材・執筆にも取り組む。2024年、ひとり出版社〈瑞乃書房〉を設立。

ひとり出版社〈瑞乃書房〉の舞台裏1 はじめての出版編

2026年9月15日 第1版第1刷 プレビュー版 発行

著者 米田政行

発行所 瑞乃書房株式会社

〒133-0065 東京都江戸川区南篠崎町3-4-2

☎03-5879-8598

mail@mizunoshobo.co.jp

https://mizunoshobo.co.jp

ロゴデザイン STEREOTYPE Inc.

写真・装丁 著者

© YONEDA Masayuki

瑞乃書房